

平成29年度 施策評価表 (平成30年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 01

1 施策の基本情報

施策名	17	地域の歴史	展開方向	01	文化財や歴史資料等の地域資源を保存・活用するとともに、地域の歴史や文化財に関する情報を市内外に発信します。
主担当局			教育委員会		

2 目標指標

指標名	方向	基準値		目標値 (H29)	実績値					現時点での達成率	
					H25	H26	H27	H28	H29		
文化財収蔵庫での展示会の観覧者数		H26	10,579	人	15,000	1,228	10,579	11,397	13,081	**	56.5%
田能資料館での展示会の観覧者数		H26	11,685	人	15,000	12,600	11,685	29,625	26,003	**	100%
指定・登録文化財の件数		H24	104	件	109	106	107	108	108	**	80.0%
地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数		H24	1,833	人	2,200	1,877	2,201	2,442	2,495	**	100%
地域研究史料館所蔵史料整理・公開比率		H24	76	%	78	76	77	79	76	**	0%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など
------	-----------------------------------

重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
28年度	10.7%	21.2%	56.9%	9.1%	2.1%
27年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.29点(平均3.89点)		
26年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.44点(平均3.98点)		

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
28年度	2.3%	15.2%	71.1%	9.3%	2.1%
27年度	第 5 位 / 20施策	5点満点中	3.06点(平均2.99点)		
26年度	第 4 位 / 20施策	5点満点中	3.04点(平均2.95点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。

4 平成29年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

5 平成28年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	新規 100周年記念事業新市史刊行事業
2	
3	
4	
5	

6 平成27年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

7 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成28年度実施内容を記載)	総合戦略
<p>行政が取り組んでいくこと 歴史遺産の保存と活用</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) 【歴史資料の保存公開と活用】 (目的) 史跡・文化財や歴史資料等の各種収集資料の保存・公開に取り組み、観光資源として活用を図ることにより、歴史豊かなまちの魅力の再発見・創出につなげる。 (成果) 収集する歴史資料等の件数は64点増加し、27,152点になり、収集を寄贈・寄託に限るなか、貴重な地域資源である歴史資料の保存に寄与することができた。なかでも、市制100周年を記念して市民から寄贈を受けた近松門左衛門自筆の浄瑠璃原稿と江戸時代中期に尼崎藩領内で獲れた魚貝類を色鮮やかに描いた「尼崎産魚」はマスコミで大きく取り上げられ、歴史豊かなまちの魅力の発信にも寄与することができた。 収集資料の公開・活用による文化財収蔵庫企画展等の展示会の観覧者数は前年度より1,684人増え13,081人となった。(目標指標)</p> <p>田能資料館では、特別展等を開催するなか、市外からの来館者も多く、尼崎の魅力発信にもつながっている。展示に関連したワークショップを取り入れて来館者の年齢層の幅を広げるなどにより、平成28年度の観覧者は26,003人となった。(目標指標)</p> <p>(課題) 文化財収蔵庫が所蔵する資料のうち、温度・湿度の管理を要する資料を適切に保管できる施設がなく、民間の美術倉庫を借り上げて保管料を支出していることから、適切に管理し、公開・活用できる施設の整備が課題である。 田能遺跡の魅力をもっと広く広報していく必要がある。</p> <p>【文化財の調査と情報発信】 (目的) 埋蔵文化財の保全・調査や地域の歴史・文化財に関する調査研究・資料収集を進め、調査研究成果の情報発信を図ることにより、まちの魅力を市内外に発信しシティープロモーションの推進に寄与する。 (成果) 埋蔵文化財の取扱に関する照会件数は前年度より178件増え1,989件となり、事前調整が図られ円滑に保全・調査することができた。東富松遺跡B発掘調査現場で開催した現地説明会には350人の参加者があり、情報発信につながった。 国・県・市指定文化財及び国登録文化財件数の変動はなかったが、情報発信の新たな取組として平成27年度に指定した文化財を紹介する講演会を中央公民館と連携して開催し、68人の参加者があった。(目標指標)</p> <p>富松城跡用地を市有地との交換により取得するとともに、歴史遺産の保存・活用をテーマに市内と近隣の市民グループの参加を得て開催したフォーラムには101人が参加し、市内外への情報発信に努めた。 (課題) 富松城跡を広く市民に周知するとともに、市民との協働による保存・活用の取組を図っていくことが課題である。</p> <p>(地域研究史料館) 【地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料情報、調査研究成果の情報発信】 (目的) 地域研究史料館の利用や歴史刊行物刊行等を通じて、地域の歴史に関する調査研究・資料情報を発信する。 (成果) 史料利用・公開の分野では引き続きレファレンスサービスを重視し、Webサイト等を活用した情報発信に努めた。公式Webサイト年間アクセス数(ページビュー)7万1,845件、管理する3コンテンツ年間アクセス数合計約15万件。年間相談利用人数は2,495人と過去最高を記録し、市民、学生、市内団体・企業、庁内など多種多様な利用を実現した。(目標指標)</p> <p>市制100周年記念の歴史刊行物等を編集・刊行し、頒布・配布・活用を努めた。「たどる調べる尼崎の歴史」3千冊・「尼崎の歴史ダイジェスト版」6万冊刊行した。学校配布、レファレンス活用、講座実施等により活用を図った。 (課題) 新市史をテキストとする市史を読む会等企画の実施及び、学校教育現場での活用方策検討・教材化する。</p> <p>【歴史資料等の各種収集資料の保存・公開】 (目的) 所蔵史料の整理・公開を進め、地域の歴史を学ぶ環境を整えていく。 (成果) 「2016年の尼崎」記録写真公募4千点など新たに史料計2万点を受け入れ、平成28年度末現在所蔵点数36万点となった。6,300点を年度中に整理・公開し累積整理公開点数27万5千点となった。所蔵に対する整理公開比率は平成27年度より減少し76%となった。(目標指標)</p> <p>(課題) 史料館分室(旧大庄西中体育館)に保管している大量の史料について、施設の移転に向け整理が必要となっている。新施設移転後には、これまで以上に、公文書等を歴史資料として保存し、閲覧に供し、調査研究を行うという公文書館としての機能を発揮するため、制度的な準備を進める必要がある。</p>	

平成29年度の取組
<p>(文化財収蔵庫・田能資料館) 【歴史資料の保存公開と活用】 現文化財収蔵庫を城内地区における都市再生整備計画の中心拠点施設誘導施設である歴史館機能として整備するための実施設計に着手するとともに、移転準備を進める。 インターネット上に田能遺跡の紹介動画を掲載するなど、さらに広報を推進していく。 【文化財の調査と情報発信】 富松城跡を広く市民等に周知するための展示会・シンポジウム等の事業を市民団体との協働・連携により実施する。また、富松城跡を活かした市民との協働のまちづくりに向け、新たな保存管理・活用の方策について検討を進める。</p> <p>(地域研究史料館) 【地域の歴史や文化財に関する調査研究・資料情報、調査研究成果の情報発信】 新市史をテキストとする市史を読む会企画を実施し、合わせて学校教育現場での活用方策検討・教材化を行なう。 【歴史資料等の各種収集資料の保存・公開】 新施設移転に向け、移動不要の史料の廃棄あるいは電子化による保存等の検討を進める。本格的な公文書館事業実施に向けた制度的な準備として、調査研究及び関係部局との連携・協議等を行う。</p>
新規・拡充の提案につながる項目
改革・改善の提案につながる項目
<p>枠配分予算の捻出にあたっては、地域の歴史施策全体で見直しを検討していく。</p>

8 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針			
<p>・本市の歴史的なシンボルとなる尼崎城の竣工が平成30年中に予定されており、これまで以上に市民の歴史への関心が高まる中、この機会を捉えた効果的な施策を展開していく必要がある。</p> <p>・富松城跡については、尼崎城プロジェクトの進展も踏まえ、どちらも本市の歴史的意義を有する城であるという観点から、効果的なPRや活用を図っていく。</p> <p>・史料館分室(旧大庄西中体育館)に保管されている大量の史料は、施設の移転に向けて整理が必要となっており、保管を要するものを精査するとともに、必要なコストも踏まえた電子化等の検討を進めていく。</p>			
総合評価			
<table border="1"> <tr> <td>重点化</td> <td>転換調整</td> <td>現行継続</td> </tr> </table>	重点化	転換調整	現行継続
重点化	転換調整	現行継続	

平成29年度 施策評価表 (平成30年度向け施策の取組方針)

1 施策の基本情報

施策名	17	地域の歴史	展開方向	02	地域の歴史に関心を持つ市民の学習機会や場所の充実など、ともに学びあえる環境づくりを進めます。
担当当局	教育委員会				

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値(H29)	実績値						現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29		
文化財収蔵庫・田能資料館主催事業の参加者数		H26 1,388 人	1,500	1,089	1,388	1,640	1,208	**	0%	
文化財収蔵庫ボランティアの活動者数		H24 2,183 人	2,400	2,270	2,712	2,828	2,499	**	100%	
地域研究史料館講座・自主グループ参加人数		H24 854 人	895	870	848	820	977	**	100%	
地域研究史料館出講・協力件数		H24 25 件	44	37	44	66	57	**	100%	
地域研究史料館ボランティア作業延べ人数		H24 434 人	492	476	492	612	668	**	100%	

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など
------	-----------------------------------

重要度

	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
28年度	10.7%	21.2%	56.9%	9.1%	2.1%
27年度	第20位 / 20施策		5点満点中	3.29点(平均3.89点)	
26年度	第20位 / 20施策		5点満点中	3.38点(平均3.99点)	

満足度

	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
28年度	2.3%	15.2%	71.1%	9.3%	2.1%
27年度	第 5位 / 20施策		5点満点中	3.06点(平均2.99点)	
26年度	第 4位 / 20施策		5点満点中	3.04点(平均2.95点)	

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。

4 平成29年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	新規 尼崎城址公園整備事業
2	拡充 城内まちづくり整備事業
3	
4	
5	

5 平成28年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	新規 城内まちづくり整備事業
2	新規 田能遺跡サポーター養成事業
3	
4	
5	

6 平成27年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

7 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成28年度実施内容を記載)
<p>行政が取り組んでいること 地域の歴史に関する学習機会の提供 総合戦略</p> <p>【城内まちづくり整備】 (目的)交流人口の増加及び市民のまちに対する誇りや愛着の醸成を目指し、歴史館機能の整備や尼崎城の内部展示及び尼崎城址公園の整備を行う。 (成果) 歴史館機能の博物館登録に向けて、条件整理や整備内容の検討を行うとともに、庁内関係課における役割を明確にし、次年度以降の取組を円滑に進められるようにした。 寄贈を受ける予定の尼崎城について、内部展示の整備内容について検討し、平成29年度から30年度の2か年にわたる同整備内容を含む計画案について説明会(6回)やワークショップ(2回)を実施した。 尼崎城址公園を拡張整備するための実施設計を委託し、庁内関係課と調整を行うことで残存する歴史・文化資源を活かした、尼崎城と一体的な公園整備の方向性を決定した。 (課題) 建築基準法に関する耐震評価や建物用途の変更など各種課題の解決を図る必要がある。 尼崎城再建プロジェクトの認知度を高め、機運の醸成を図るため、イベントの実施や広報を行う必要がある。 尼崎城址公園は、尼崎城を中心とした都市拠点として、歴史・文化的環境との調和の取れた空間の整備が求められるため、綿密な庁内調整を行い、円滑に整備工事を進めることが課題である。また、計画地の一部が未取得であることや、埋蔵文化財への配慮等が必要である。</p> <p>【文化財収蔵庫・田能資料館】 【歴史学習の機会提供】 (目的)市民が地域の歴史や文化財に触れる機会の提供や、ボランティア、市民グループ等と連携した事業に取り組むとともに、市民が歴史を調べ学ぶことのできる拠点施設の整備を図り、シビックプライドの醸成に寄与する。 (成果) 文化財収蔵庫の夏休み事業は見直しにより109人減となったが、市民向け歴史講座の受講者総数は86人増えた。田能資料館で開催している古代のくらし体験学習会は回数減により、前年に比べて参加者が402人減となった。(目標指標) 文化財収蔵庫で活動する「れきし体験学習ボランティア」と「文化財サポートボランティア」の延べ活動者数は前年比では減少したが目標値2,400人を超える2,499人であった。(目標指標) 歴史・文化財関係の市民グループとの連携を継続的に取り組むとともに、地域の歴史や文化財に関する研修会・見学会への学芸員の出講・案内は、平成28年度は昨年度より7回、延べ210人増え、37回、延べ1,355人が受講・参加した。 (課題) 地域の歴史に関する学習機会の提供を継続的かつ、より効果的に進めていくため、現文化財収蔵庫の施設面での環境整備が課題である。</p> <p>【地域研究史料館】 【地域の歴史を学ぶ場と機会の提供】 (目的)地域の歴史に対する市民の関心や理解を深めるため、歴史資料等に触れ、地域の歴史を学ぶ機会を提供する。 (成果) 市史を読む会等計88回開催、受講者は977人と増加だった。市制100周年の年に市民が学ぶ場を提供できた。(目標指標) (課題) 平成28年度の新市史刊行を受け、引き続き学ぶ機会や場を提供していく。 【歴史に関わる多様な取り組みへの連携・協力】 (目的)市民等からの求めに応じて講師出講、講座・展示・調査・出版への協力等、多様な学ぶ機会・場作りに貢献する。 (成果) 出講43件、講座等協力14件、計57件であった。市制100周年にふさわしい学ぶ機会作りに貢献することができた。(目標指標) (課題) 出講・協力依頼については複数職員が分担対応しているが、他の業務を圧迫する状況にある。 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 (目的)歴史資料等への関心高め、親しみや愛着を醸成していくため、多くの人々が事業に深く関わる機会を提供する。 (成果) 作業回数493回、参加実人員78人、延べ668人であった。多様な作業体験機会を作り、作業成果を得ることができた。(目標指標) (課題) 市民ボランティア参加者数の増加に対応するための作業環境を整備する。</p>

8 施策評価結果(二次評価)

平成29年度の取組
【城内まちづくり整備】 平成29年度の早期に実施設計を開始し、歴史館機能の整備内容について庁内調整を行うとともに、建築基準法に関する各種課題の解決に向けて関係機関と協議していく。 尼崎城の内部展示について、平成30年度までの2か年をかけて整備を行うため、業者選定する。尼崎城のグランドオープンに向けて機運の醸成を図るべく、一枚瓦寄付記念会など効果的なイベントについて検討し、実施する。 尼崎城等の指定管理制度も含めた効率的・効果的な管理運営方法の検討を行う。 尼崎城址公園の整備について、平成30年度までの2か年計画であり、平成29年度は北側部における遊具や植栽等の整備工事を実施する。
【文化財収蔵庫】 【歴史学習の機会提供】 現文化財収蔵庫を城内地区における都市再生整備計画の中心拠点施設誘導施設である歴史館機能として整備するための実施設計に着手する。
【地域研究史料館】 【地域の歴史を学ぶ場と機会の提供】 市立中央図書館・北図書館・園田学園女子大学と連携し、市制100周年記念新市史等をテキストとする講座企画を拡充実施する。 【史料整理・活用に協力する市民ボランティア事業の実施】 ボランティアの協力機会が増加するにつれ、その準備にあたる史料館職員の業務上の負担も増加している。史料館の受入体制整備、効率化に努めていく。
新規・拡充の提案につながる項目
【城内まちづくり整備】 尼崎城のグランドオープンイベントを始め、建築現場見学会など機運醸成を図るべく積極的にイベントを実施する。また、尼崎城プロジェクトの認知度向上を図るため、市単独のイベントだけでなく、市内外においてPRキャンペーンを行う。 尼崎城の管理運営主体を選定し、平成30年度中のグランドオープンに向けて、事務を進めていく。
改革・改善の提案につながる項目

評価と取組方針		
・城内地区では歴史的な地域資産と市民が歴史を学習できる機能が集積されることから、そのメリットが十分に活かされるような取組の方針を検討する必要がある。		
・城内地区において整備する歴史館機能については、尼崎城の内部展示との役割分担のもと、互いの相乗効果が発揮されるよう、取組の充実に向けた検討を進めていく。		
・尼崎城のPRや運営等に当たっては、財政負担に留意しつつ、観光地域づくりと緊密に連携し、地域経済の活性化にもつながる取組を進めていく。		
総合評価		
重点化	転換調整	現行継続

平成29年度 施策評価表 (平成30年度向け施策の取組方針)

施策名: 地域の歴史
 施策番号: 17 - 03

1 施策の基本情報

施策名	17 地域の歴史	展開方向	03	住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りが育つよう、地域の歴史や文化財等の魅力を分かりやすくしっかりと伝えていきます。
担当当局	教育委員会			

2 目標指標

指標名	方向	基準値	目標値(H29)	実績値					現時点での達成率
				H25	H26	H27	H28	H29	
尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合		H26 55.8 %	68.5	62.6	55.8	56.0	55.4	**	0%
本市の文化財に関してマスコミが取り上げた回数		H24 84 回	97	84	86	173	138	**	100%
むかしのくらし学習で文化財収蔵庫に来館した小学校数		H24 22 回	41	23	24	26	24	**	10.5%
学校等と連携した出張授業等の実施回数		H24 23 回	41	25	52	58	52	**	100%
田能資料館の来館者数		H26 29,874 人	31,500	34,858	29,874	47,721	45,294	**	100%

3 市民意識調査(市民評価)

項目内容	歴史遺産の保存と活用 地域の歴史に関する学習機会の提供 など				
重要度	重要	まあ重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
28年度	10.7%	21.2%	56.9%	9.1%	2.1%
27年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.29点(平均3.89点)		
26年度	第20位 / 20施策	5点満点中	3.44点(平均3.98点)		
満足度	満足	どちらかといえば満足	ふつう	どちらかといえば不満足	不満足
28年度	2.3%	15.2%	71.1%	9.3%	2.1%
27年度	第5位 / 20施策	5点満点中	3.06点(平均2.99点)		
26年度	第4位 / 20施策	5点満点中	3.04点(平均2.95点)		

割合の合計は、端数処理の関係により100%にならない場合があります。

4 平成29年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	
2	
3	
4	
5	

5 平成28年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	拡充 地域資源活用型まちづくり推進事業
2	
3	
4	
5	

6 平成27年度 主な新規・拡充一覧

区分	事業名
1	拡充 地域資源活用型まちづくり推進事業
2	
3	
4	
5	

7 担当局評価(一次評価)

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(平成28年度実施内容を記載)	総合戦略
<p>行政が取り組んでいること 住んでいる地域や尼崎市への愛着と誇りを育てる</p> <p>(文化財収蔵庫・田能資料館) 【歴史学習の機会や場の拡充】 (目的)学校や社会教育施設、市民グループ等との連携による歴史・文化に触れる学習機会や場の拡充を図ることにより、身近な地域の歴史に対する関心を高め、愛着と誇りの醸成につなげる。 (成果) 国登録文化財大庄公民館のボランティアガイド養成の取組のほか、公民館や図書館主催講座への学芸員の出講等、社会教育主事、司書、学芸員がそれぞれの専門性を活かして連携・協力することで学習機会の充実を図った。また、尼崎市総合文化センターとの連携で「忍たま乱太郎ミュージアム 特別企画展」を開催し、7,176人の来館者があった。 田能資料館では「出張勾玉づくり」を継続して実施し、田能資料館のPRに加え、歴史に触れる学習機会の充実をめぐるなか、参加者からは好評を得た。また、平成27年度に引き続き「わくわく体験教室」を受け入れ、子どもたちが歴史等に触れる機会を提供するとともに、社会教育施設等と連携した歴史・文化に触れる学習の機会の充実をめじた。 市民意識調査では尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合は前年度並みの55.4%で、平成26年度以降、ほぼ同率で推移しており、事業参加者の増加が必ずしも関心の高まりにつながっていない状況である。(目標指標) 積極的に情報発信に努めた結果、本市の文化財や歴史に関して新聞・テレビ等のマスコミが取り上げた回数は昨年度実績には及ばなかったものの138回に及んだ。(目標指標) 小学3年生の社会科のカリキュラムに即した「むかしのくらし学習」では、市立小学校の半数を超える24校が文化財収蔵庫に来館しており、学校教育との連携による歴史・文化に触れる学習機会の充実につながった。(目標指標) 学校と連携した取組では、尼崎にゆかりの作物(綿や尼いも)の栽培・活用を通じた地域の歴史学習を文化財収蔵庫の学芸員が支援する「栽培活用支援事業」は27校で前年度より6校増え、学芸員が学校に出向き授業を行う「出張授業」は17校であった。田能資料館では市内小学校を対象に実施した館外出張事業(勾玉づくり事業)を契機として、団体見学として来訪を受けた。(目標指標) 田能資料館では、地域のボランティアとの連携のもと、平成28年度に方形竪穴住居の一部を葺き替えたところ、参加者から、こうした取組をもっと広げていくべきとの声があった。(目標指標) (課題) シティプロモーション推進部との更なる連携による効果的な情報発信等、尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合の向上に向けた取組が必要である。 学校との連携にあたっては学校カリキュラムの関係で時期的に集中する傾向があることへの対策と、指導者の育成や新たな手法の開発が必要である。 田能資料館では市内交通の利便性や屋外トイレが老朽化しており敬遠されがちといった課題があるが、今後も協働の取組を継続実施し、田能遺跡を広くPRしていく必要がある。</p> <p>【旧尼崎警察署の活用】 (目的)尼崎の歴史への関心と地域への誇りを高めるため、城内地区等の歴史的な市有建築物を活用し、音楽とアートのイベントを開催する。 (成果) 市制100周年記念事業として、実行委員会と共催で、「あまがさき歴史音楽祭」を2日間実施し、歴史・文化ゾーンである城内地区への関心を高めた。 (課題) 尼崎の歴史への関心を高める手段としての効果や手法について検討する必要がある。また、音楽祭を継続する場合、実施に係る財源確保や、イベント主体である実行委員会の体制強化、市の関与の仕方が課題となっている。</p>	

平成29年度の取組
(文化財収蔵庫・田能資料館) 【歴史学習の機会や場の拡充】 尼崎の歴史に関心を持っている市民の割合を改善すべく、引き続き学校・社会教育施設など関係機関・施設と連携・協力とシティプロモーション推進部との更なる連携による効果的な情報発信により、市民が身近に地域の歴史に触れる機会の提供に努め、積極的な情報発信を進める。 【旧尼崎警察署の活用】 平成29年度はイベントの継続実施に向けた協議を実行委員会と行うとともに、関連するイベント等と連携した情報発信など効果を一層発揮できるよう、取組を進めていく。
新規・拡充の提案につながる項目
改革・改善の提案につながる項目

8 施策評価結果(二次評価)

評価と取組方針
・田能資料館の来館者数は前年度と比較して減少したものの、方形竪穴住居の葺き替え等の取組によって培った地域との連携を通じ、引き続き、市民と協働して地域の歴史への関心の増進を図っていく。 ・旧尼崎警察署については、城址公園等の城内地区の整備が進展していく中、これまでの利活用の状況を踏まえつつ、今後の活用手法の検討を進めていく。
総合評価
重点化 転換調整 現行継続